

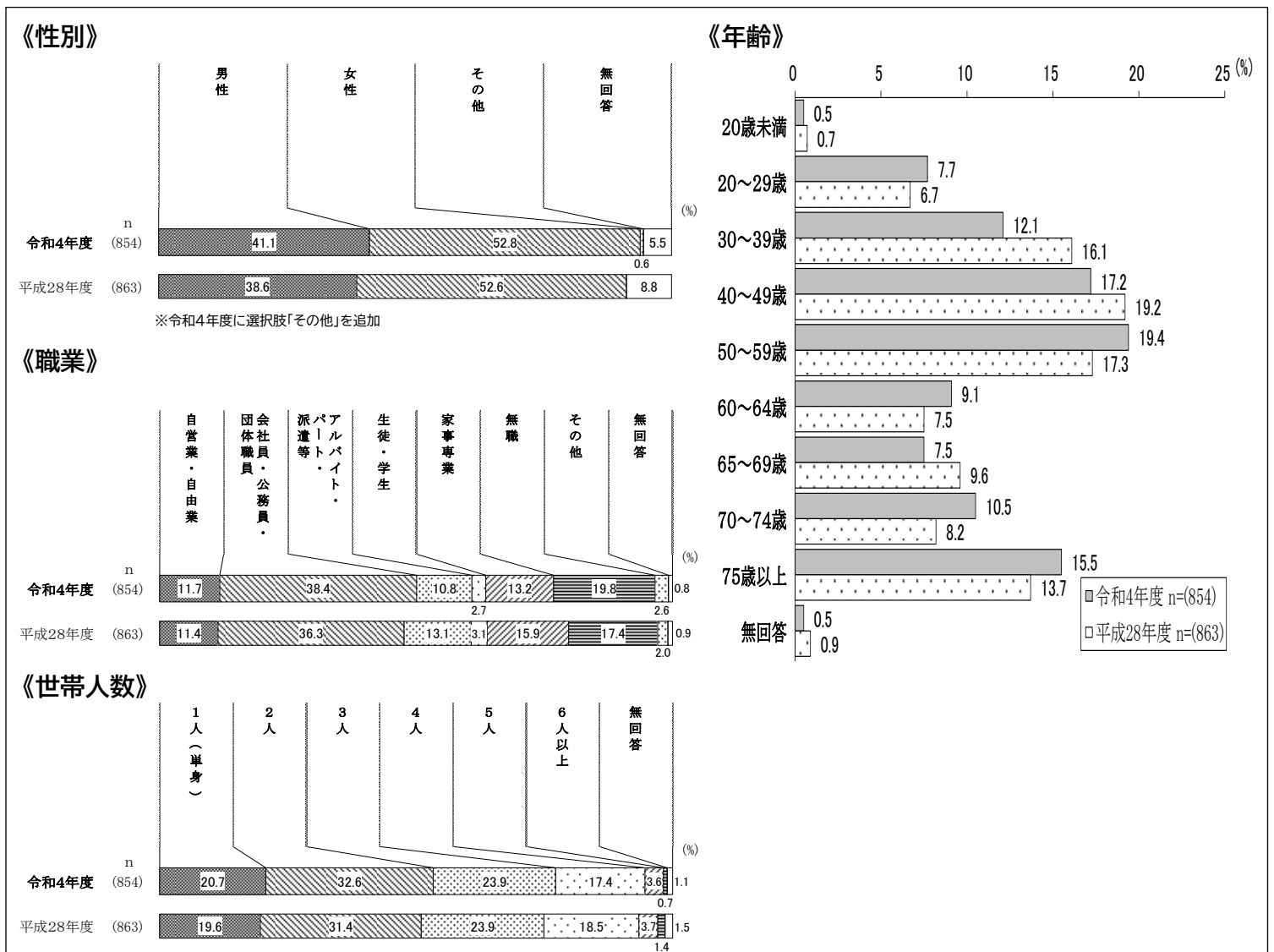
武蔵野市地域福祉に関するアンケート調査の報告【速報版】

1 調査の概要

- ◇ 調査目的 令和 5 年度に地域福祉計画を策定するにあたり、その基礎資料を得るため、地域での活動や地域との関わり等、健康福祉施策全般に係る意見・要望等を把握する。
- ◇ 調査対象者 武蔵野市内に住所を有する 18 歳以上男女個人 2,000 人
(令和 4 年 10 月 1 日時点、無作為抽出)
- ◇ 調査期間 令和 4 年 11 月 30 日から 12 月 16 日まで
- ◇ 調査方法 郵送配布・郵送回収または WEB 回答併用(督促を兼ねたお礼状を 1 回発送)
- ◇ 回収状況 配布数:2,000 件 回収数:854 件 回収率:42.7%(平成 28 年度調査:43.2%)
うち、WEB 回収数:300 件 (回収数全体の 35.1%)

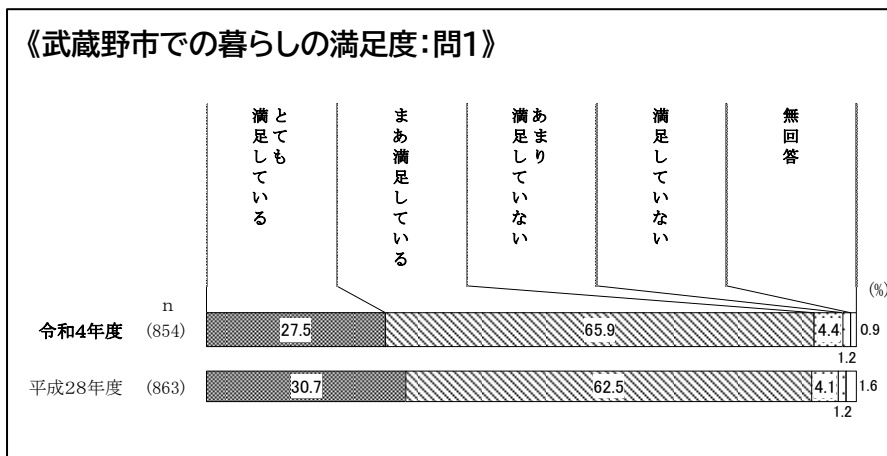
2 結果の概要

(1)回答者の属性等について

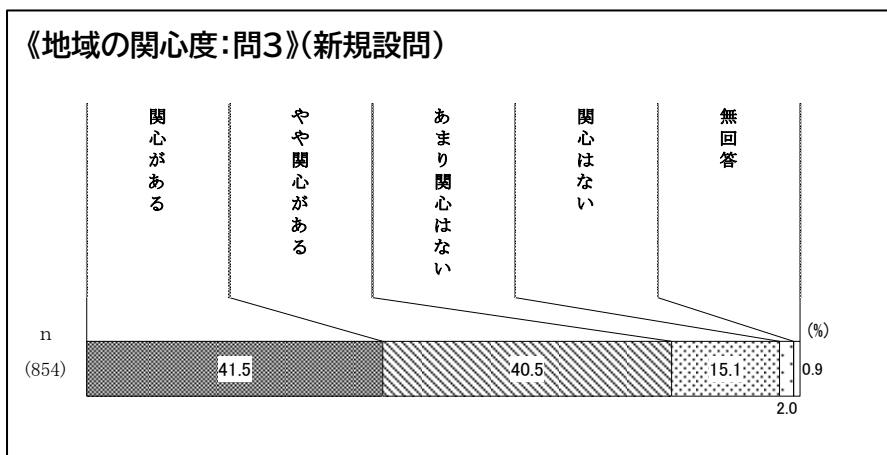


- ・回答者の性別では、「女性」が52.8%、「男性」が41.1%、「その他」が0.6%となっている。
- ・年齢では、「50～59歳」(19.4%)が最も多く、以下「40～49歳」(17.2%)、「75歳以上」(15.5%)と続いている。
- ・職業では、「会社員・公務員・団体職員」(38.4%)が最も多く、以下「無職」(19.8%)、「家事専業」(13.2%)と続いている。
- ・世帯人数では、「2人」(32.6%)が最も多く、以下「3人」(23.9%)、「1人(单身)」(20.7%)と続いている。

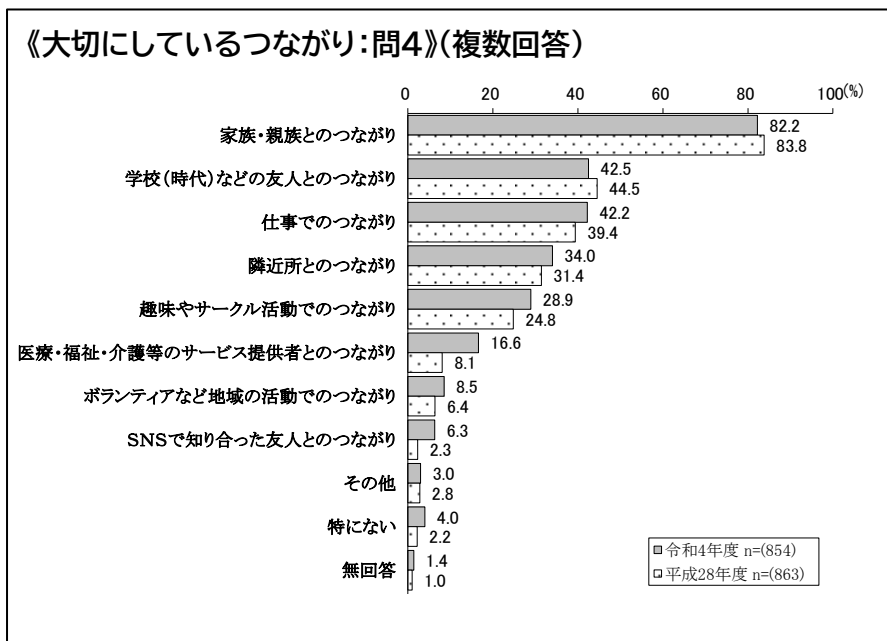
(2)地域での暮らしについて



・武蔵野市での暮らしの満足度では、「とても満足している」(27.5%)と「まあ満足している」(65.9%)を合わせた『満足』(93.4%)が9割を超える。

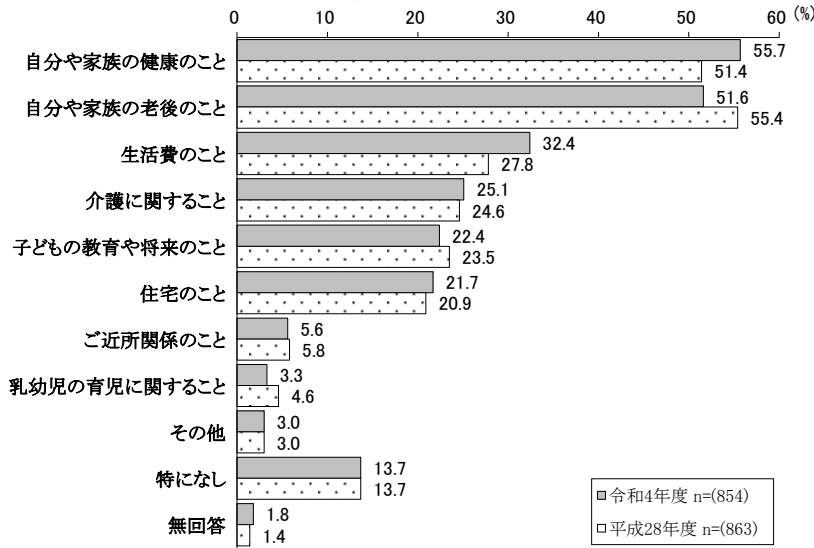


・地域の関心度では、「関心がある」(41.5%)と「やや関心がある」(40.5%)を合わせた『関心がある』(82.0%)が8割を超える。



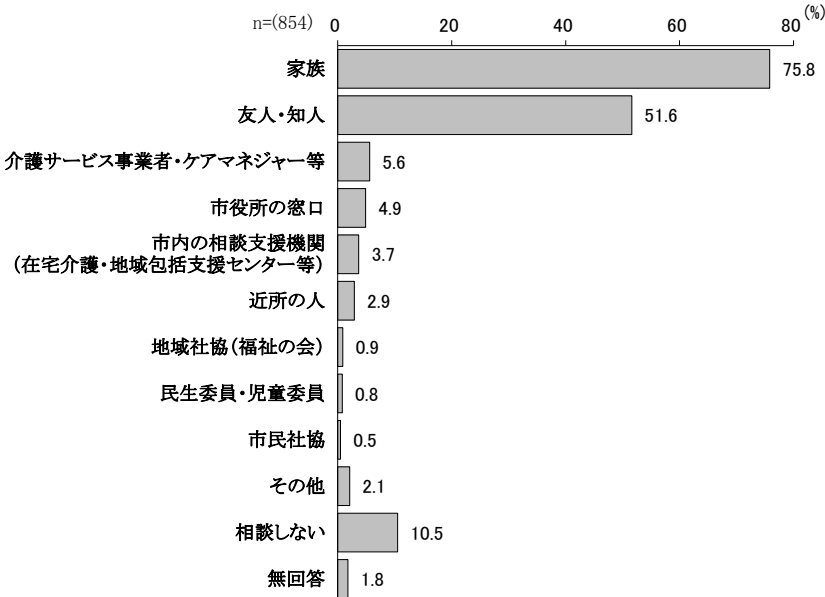
・大切にしているつながりでは、「家族・親族」が82.2%で突出しており、以下「学校(時代)などの友人」(42.5%)、「仕事」(42.2%)、「隣近所」(34.0%)、「趣味やサークル活動」(28.9%)と続いている。

《日常生活の悩みや不安:問6》(複数回答)



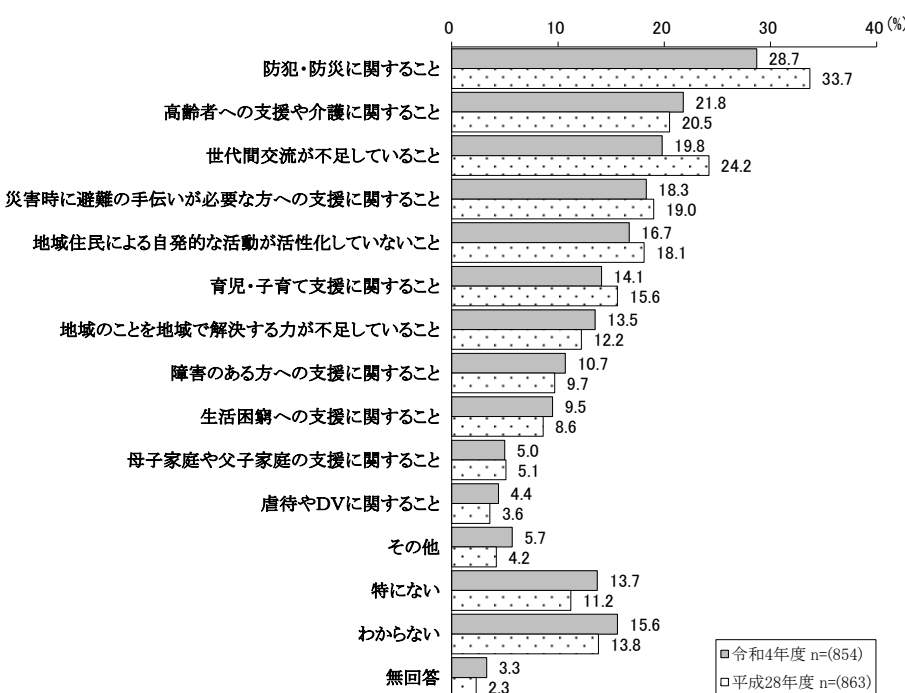
・日常生活の悩みや不安では、「自分や家族の健康のこと」(55.7%)と「自分や家族の老後のこと」(51.6%)が5割を超えており、以下「生活費のこと」(32.4%)「介護に関すること」(25.1%)と続いている。

《日常生活の悩みや不安の相談先:問7》(複数回答)(新規設問)



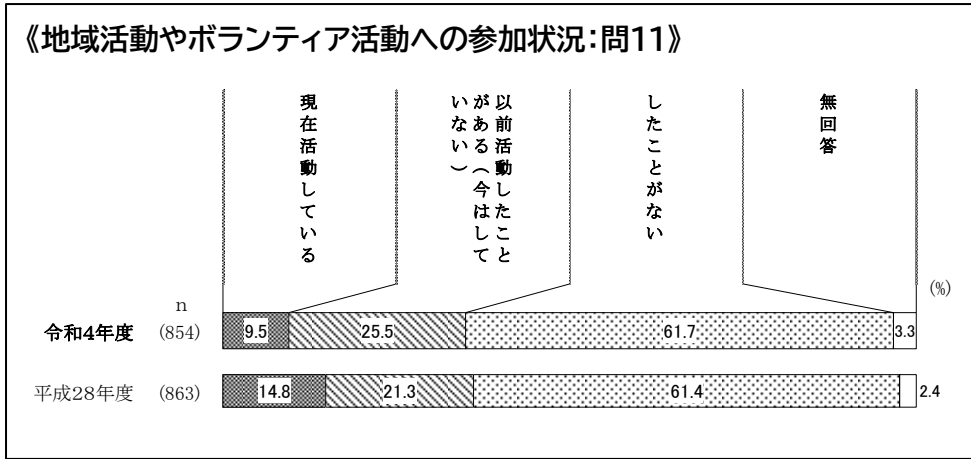
・日常生活の悩みや不安の相談先では、「家族」(75.8%)が最も多く、次に「友人・知人」(51.6%)となっている。一方、「相談しない」は10.5%となっている。

《地域における課題:問10》(複数回答)

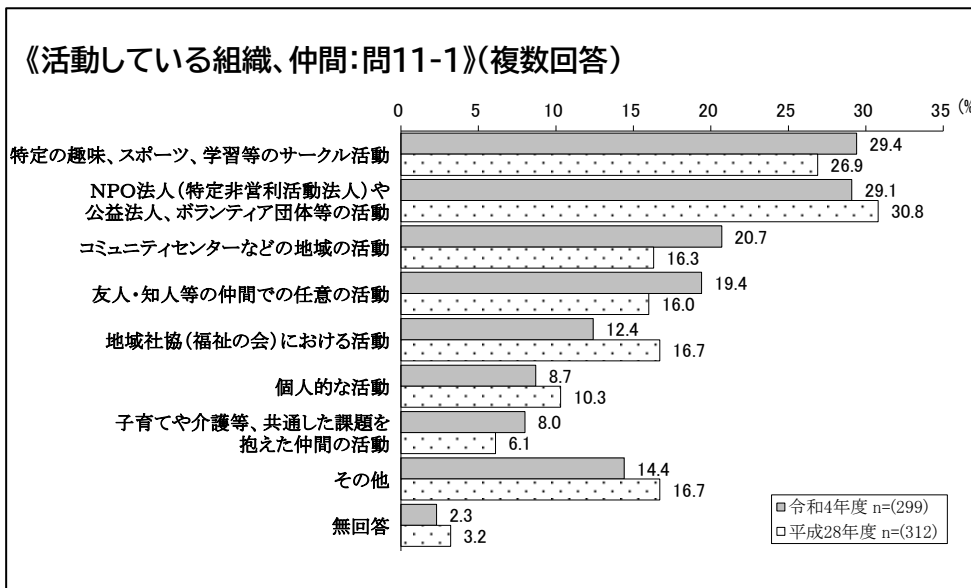


・地域における課題では、「防犯・防災に関すること」(28.7%)が最も多く、以下「高齢者への支援や介護に関すること」(21.8%)、「世代間交流が不足していること」(19.8%)と続いている。

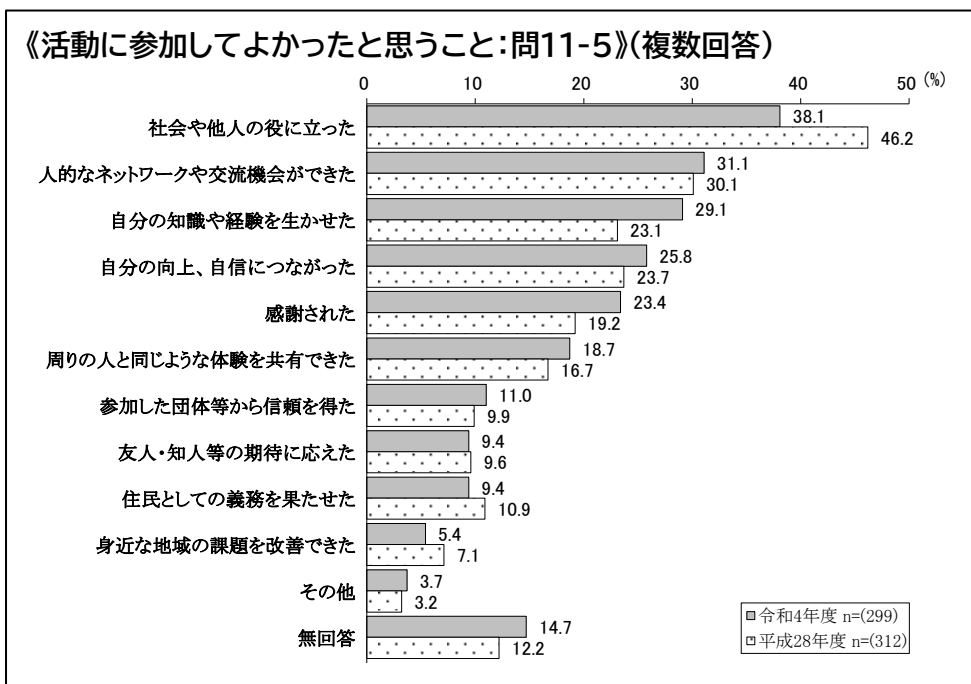
(3) 地域活動やボランティア活動への参加状況について



・地域活動やボランティア活動への参加状況では、「したことがない」(61.7%)が最も多い。一方、「現在活動している」(9.5%)と「以前活動したことがある(今はしていない)」(25.5%)を合わせて35.0%となっている。

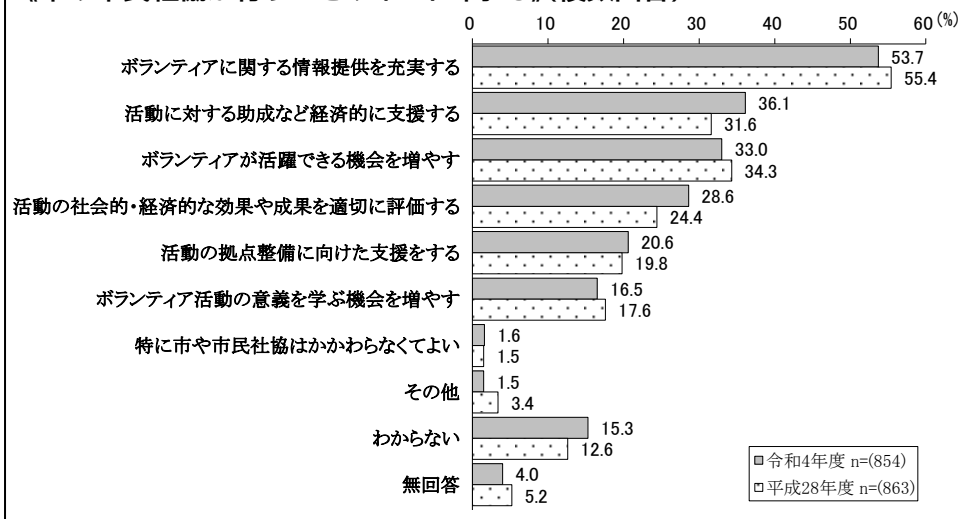


・活動している組織、仲間では、「特定の趣味、スポーツ、学習等のサークル活動」(29.4%)と「NPO法人(特定非営利活動法人)や公益法人、ボランティア団体等の活動」(29.1%)が多く、以下「コミュニティセンターなどの地域の活動」(20.7%)と続いている。



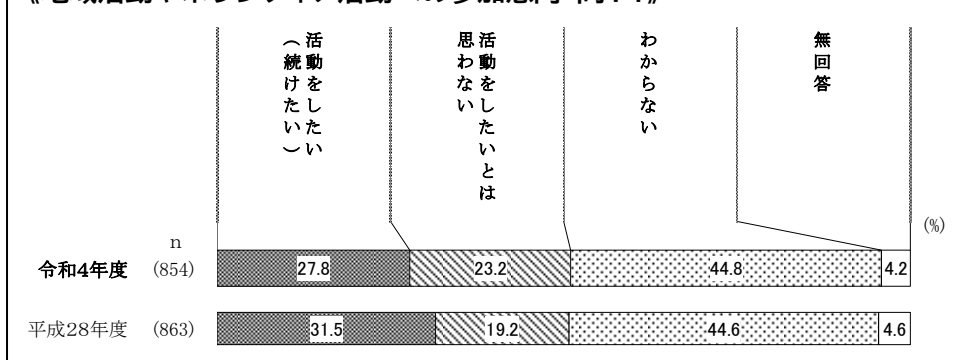
・活動に参加してよかったと思うことでは、「社会や他人の役に立った」(38.1%)が最も多く、以下「人的なネットワークや交流機会ができた」(31.1%)、「自分の知識や経験が生かされた」(29.1%)と続いている。

《市や市民社協が行うべきサポート:問13》(複数回答)



・市や市民社協が行うべきサポートでは、「ボランティアに関する情報提供を充実する」(53.7%)が最も多く、以下「活動に対する助成など経済的に支援する」(36.1%)、「ボランティアが活躍できる機会を増やす」(33.0%)と続いている。

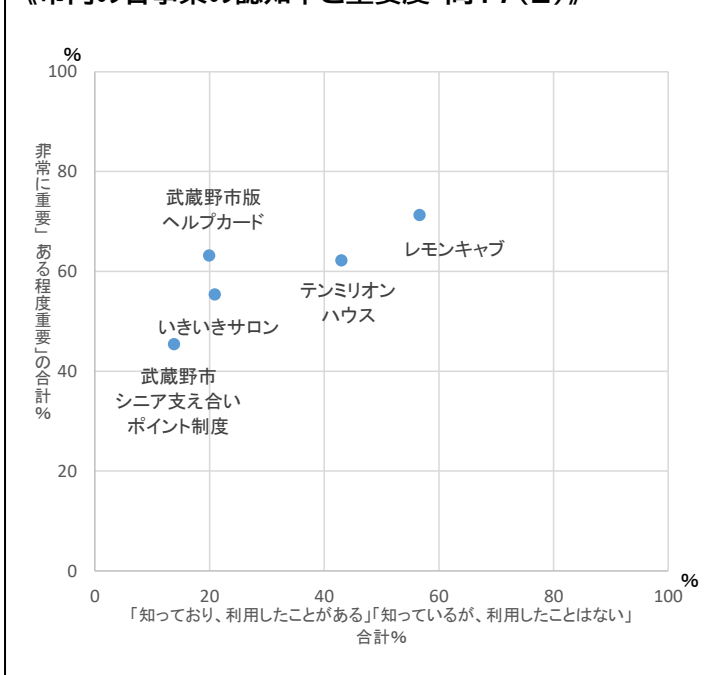
《地域活動やボランティア活動への参加意向:問14》



・地域活動やボランティア活動への参加意向では、「活動をした(続けたい)」が27.8%、「活動をしたくない」とは思わない」が23.2%となっている。

(3)市や関係団体等が行っている事業について

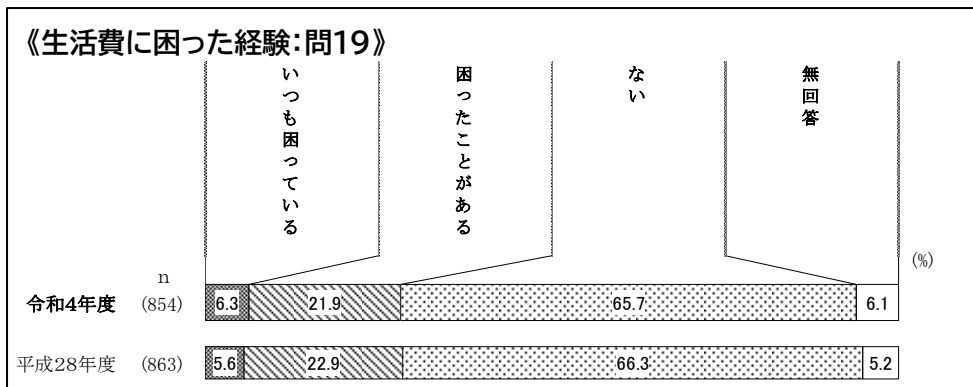
《市内の各事業の認知率と重要度:問17(2)》



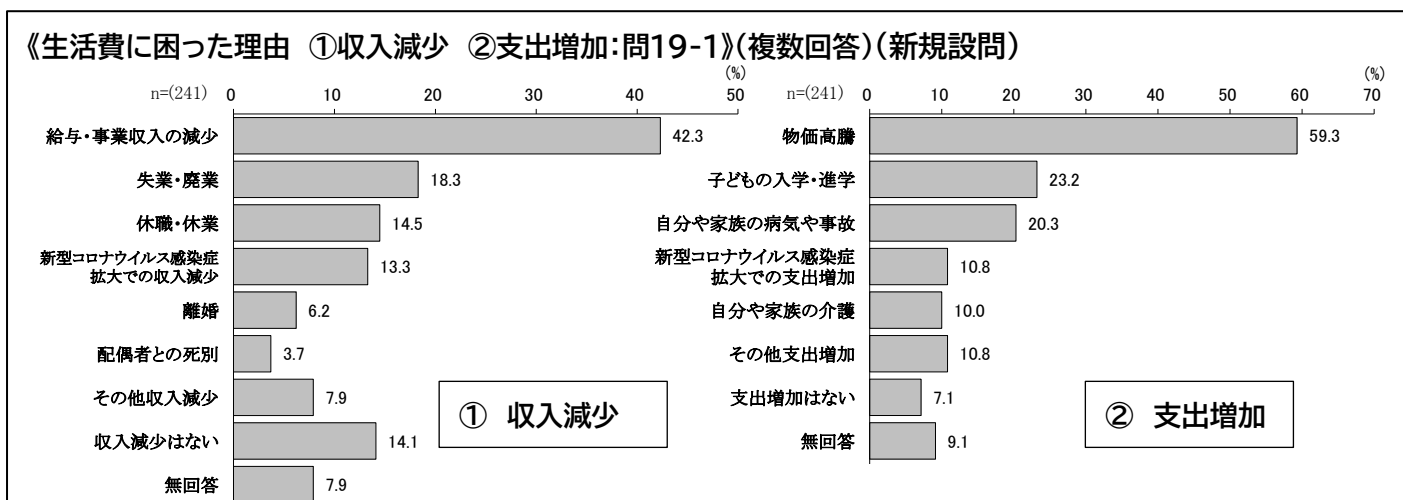
・市内の各事業の認知率では、「レモンキャブ」(56.6%)が最も多く、以下「テンミリオンハウス」(43.0%)、「いきいきサロン」(20.9%)と続いている。また重要度では、「レモンキャブ」(71.3%)が最も多く、以下「武蔵野市版ヘルプカード」(63.2%)、「テンミリオンハウス」(61.2%)の順となっている。

テンミリオンハウス : 地域での見守りが必要な高齢者に対して、地域の福祉団体等が昼食の提供や各種講座・イベントを行う通いの場
いきいきサロン : 概ね65歳以上の高齢者を対象に、週1回2時間程度で介護予防・認知症予防のための健康体操を含むプログラムを行う通いの場
レモンキャブ : バスやタクシーなど公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障害のある方の外出を支援するための移送サービス
武蔵野市版ヘルプカード : 障害のある方などが緊急時や災害時、日常生活で困ったとき、周囲の方の配慮や手助けをお願いしやすくなるカード
武蔵野市シニア支え合いポイント制度 : 65歳以上の方の介護予防や健康寿命の延伸、社会参加・社会貢献活動への参加を促進することを目的に、一定要件を満たした活動への参加に対してポイントを付与し、たまったポイントを寄付やギフト券等に交換する制度

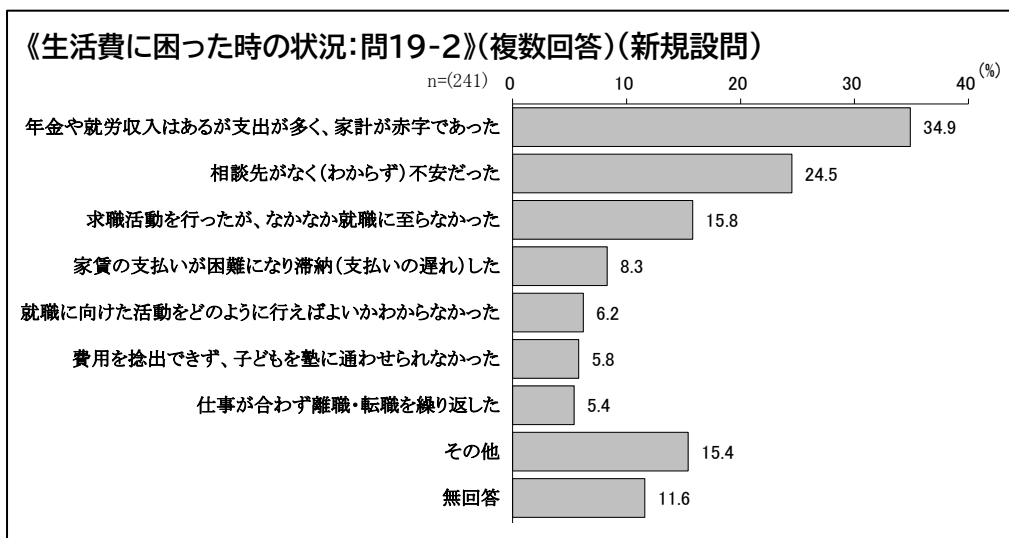
(4) 生計や生活の困窮状況について



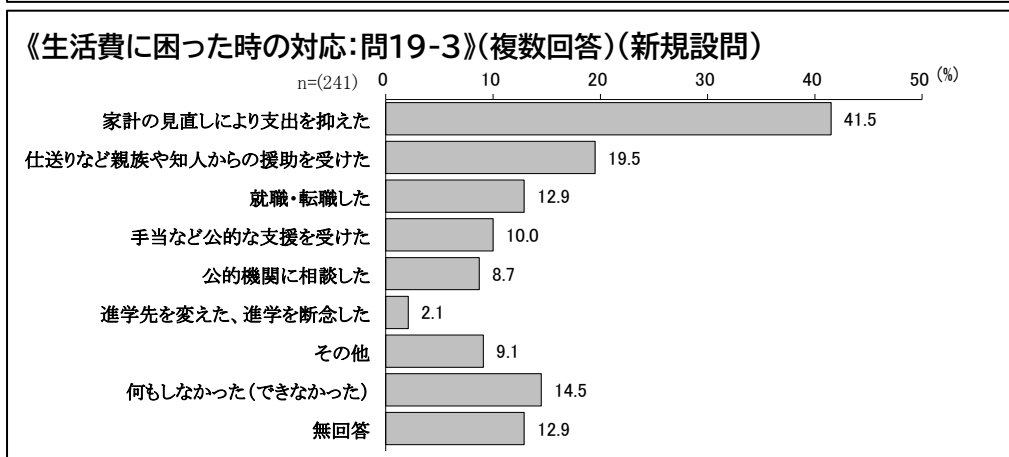
・生活費に困った経験では、「いつも困っている」(6.3%)と「困ったことがある」(21.9%)を合わせた『困った経験あり』は28.2%となっている。



・生活費に困った理由について、①収入減少では、「給与・事業収入の減少」(42.3%)が最も多く、以下「失業・廃業」(18.3%)、「休職・休業」(14.5%)の順となっている。一方、②支出増加では、「物価高騰」(59.3%)が最も多く、以下「子どもの入学・進学」(23.2%)、「自分や家族の病気や事故」(20.3%)の順となっている。

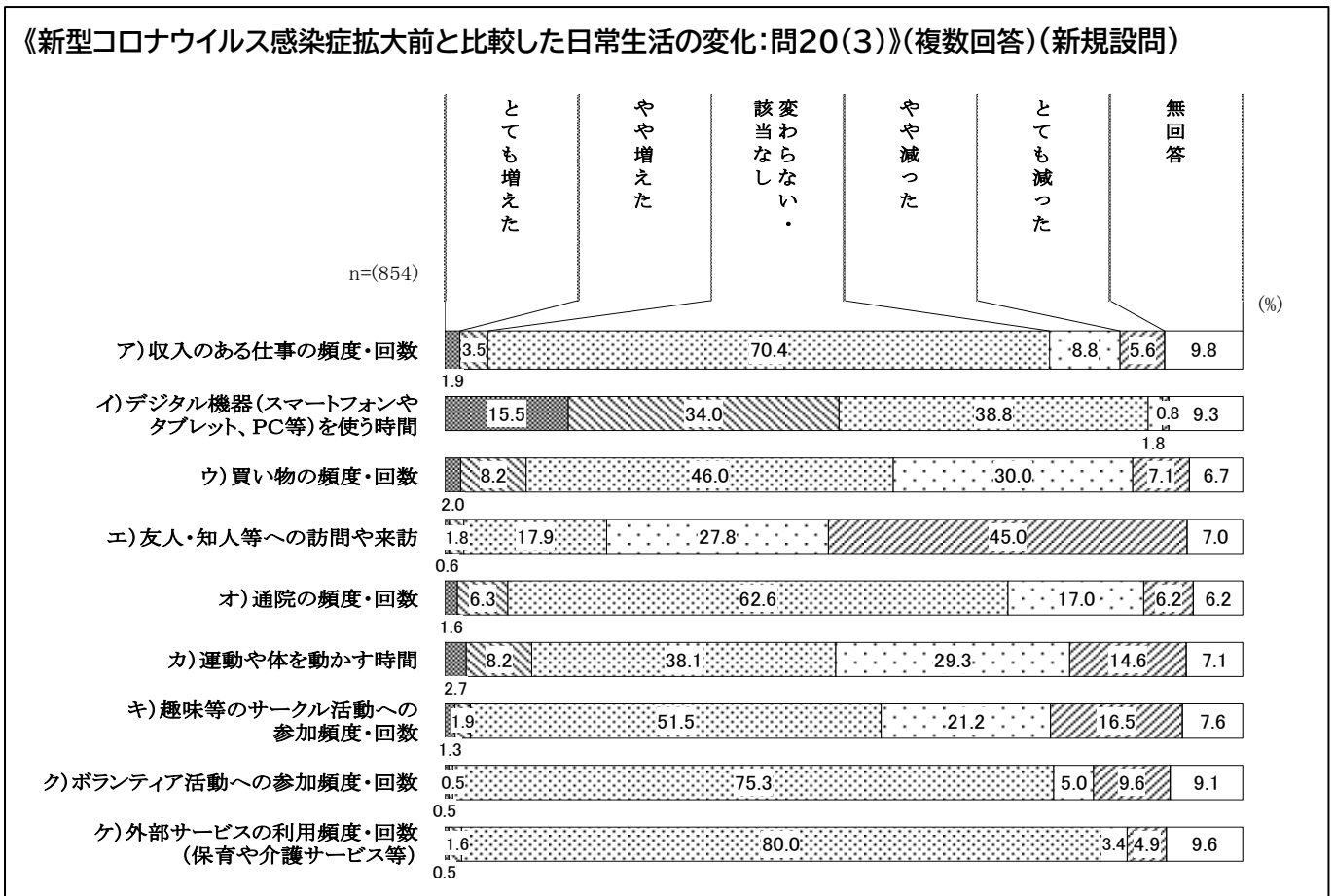


・生活費に困った時の状況では、「年金や就労収入はあるが支出が多く、家計が赤字であった」(34.9%)が最も多く、以下「相談先がなく(わからず)不安だった」(24.5%)、「求職活動を行ったが、なかなか就職に至らなかった」(15.8%)の順となっている。



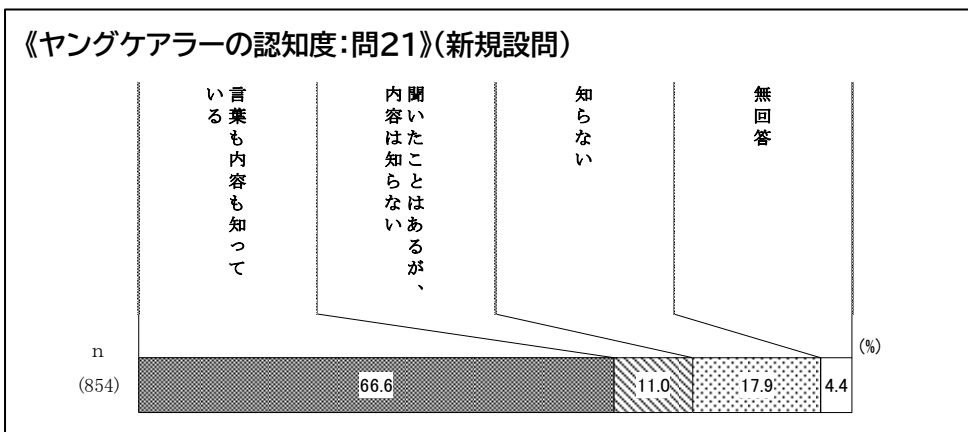
・生活費に困った時の対応では、「家計の見直しにより支出を抑えた」(41.5%)が最も多く、次いで「仕送りなど親族や知人からの援助を受けた」(19.5%)となっている。一方、「何もしなかった(できなかった)」は14.5%となっている。

(5)新型コロナウイルス感染症による影響について

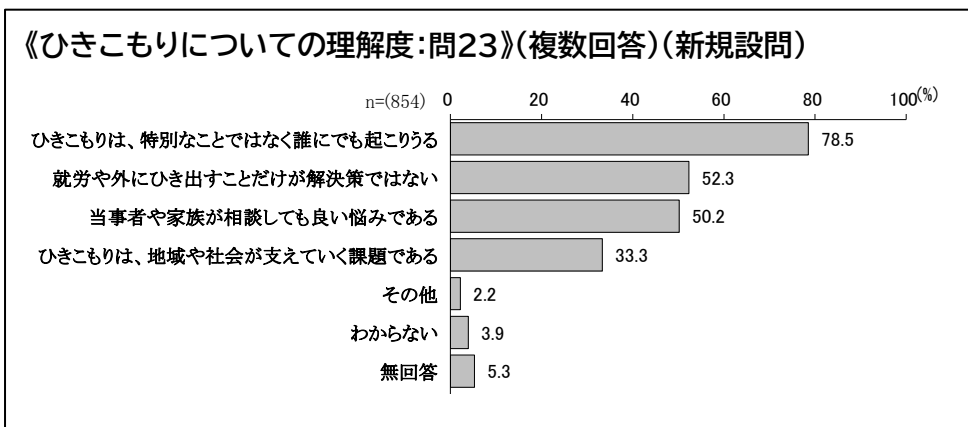


・新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した日常生活の変化では、増えた割合の多いものは「デジタル機器を使う時間」、減った割合の多いものは「友人・知人等への訪問や来訪」、「運動や体を動かす時間」、「趣味等のサークル活動への参加頻度・回数」、「買い物の頻度・回数」となっている。

(6)ヤングケアラーやひきこもりについて

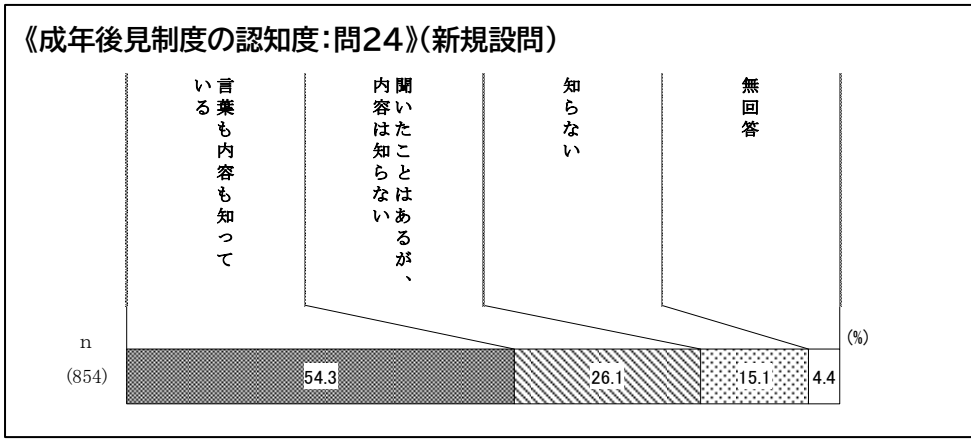


・「ヤングケアラー」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が66.6%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が11.0%、「知らない」が17.9%となっている。



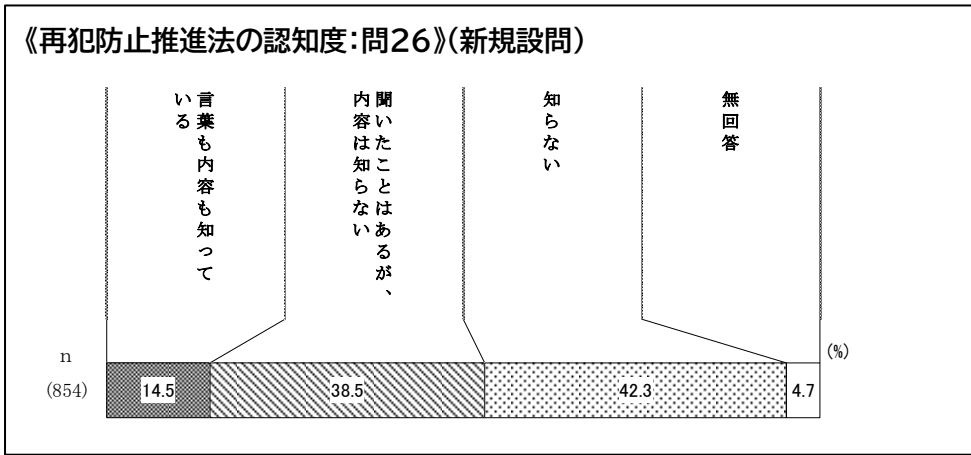
・「ひきこもり」についての理解度では、「ひきこもりは、特別なことではなく誰にでも起こりうる」(78.5%)が最も多く、以下「就労や外にひき出すことだけが解決策ではない」(52.3%)、「当事者や家族が相談しても良い悩みである」(50.2%)と続いている。

(7)成年後見制度について



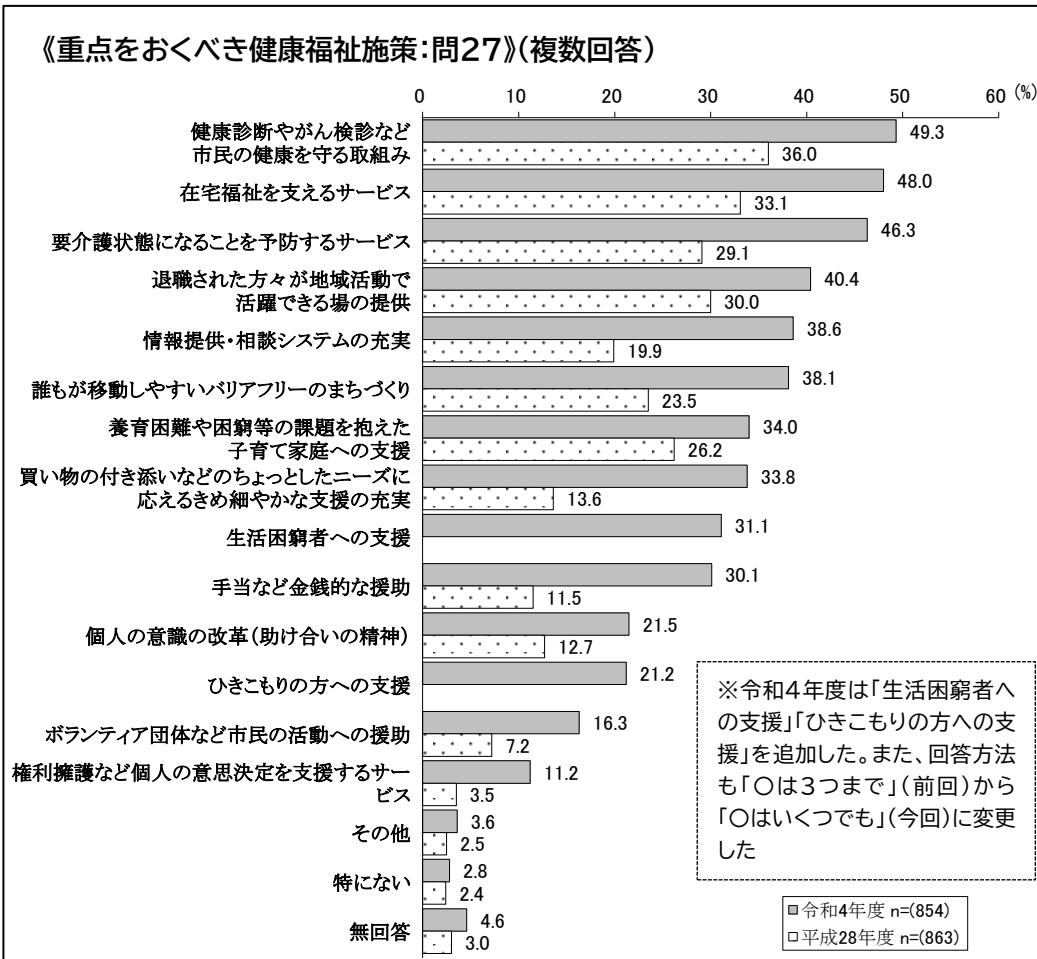
・「成年後見制度」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が54.3%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.1%、「知らない」が15.1%となっている。

(8)再犯の防止等の推進について



・「再犯防止推進法」という言葉や内容の認知度では、「言葉も内容も知っている」が14.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が38.5%、「知らない」が42.3%となっている。

(9)今後の健康福祉施策のあり方について



・重点をおくべき健康福祉施策では、「健康診断やがん検診など市民の健康を守る取組み」(49.3%)が最も多く、次いで「在宅福祉を支えるサービス」(48.0%)、「要介護状態になることを予防するサービス」(46.3%)の順となっている。

・前回調査と比較すると、上位2つ(「健康診断やがん検診など市民の健康を守る取組み」と「在宅福祉を支えるサービス」)に順位の変動はなく、3位の「要介護状態になることを予防するサービス」と5位の「情報提供・相談システムの充実」が前回調査より順位が上がっている。